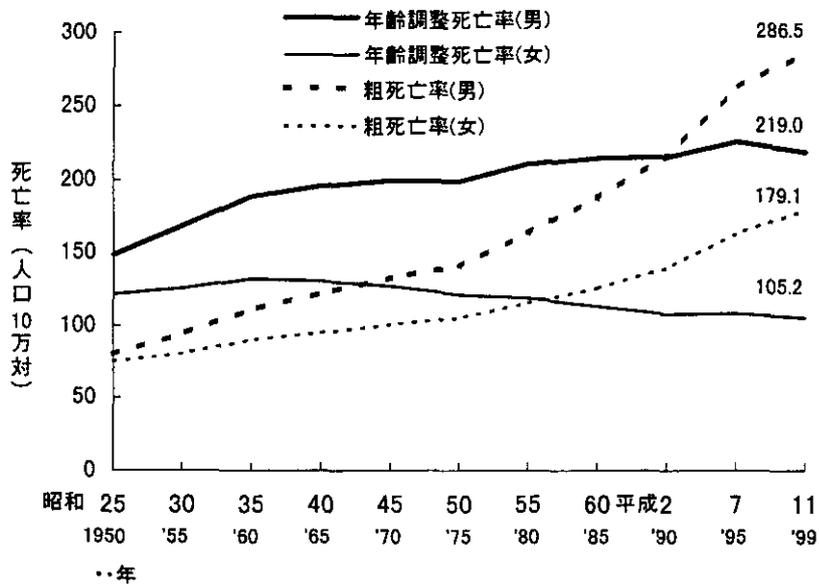


悪性新生物死亡統計について

(人口動態統計特殊報告)

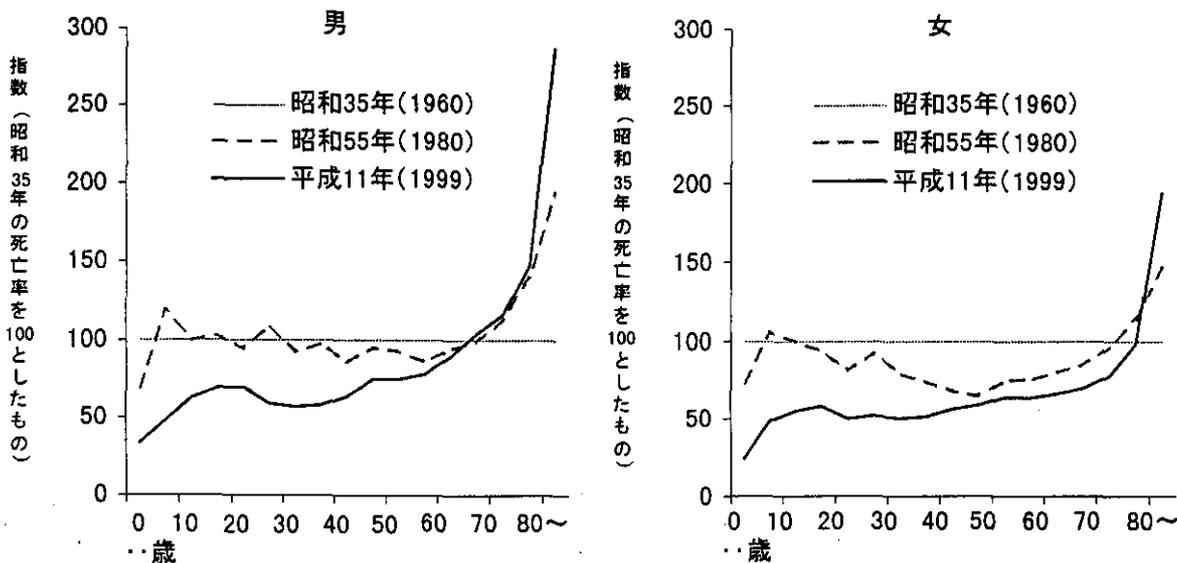
1. 粗死亡率は男女とも大きく上昇

- ・悪性新生物の死亡率は、男女ともこの約50年間で大きく上昇(男約3.6倍、女約2.4倍)した。
- ・年齢調整死亡率をみると、男では上昇は小さく(約1.5倍)、女ではむしろやや低下(約0.9倍)している。



2. 60歳代後半までは死亡率は改善

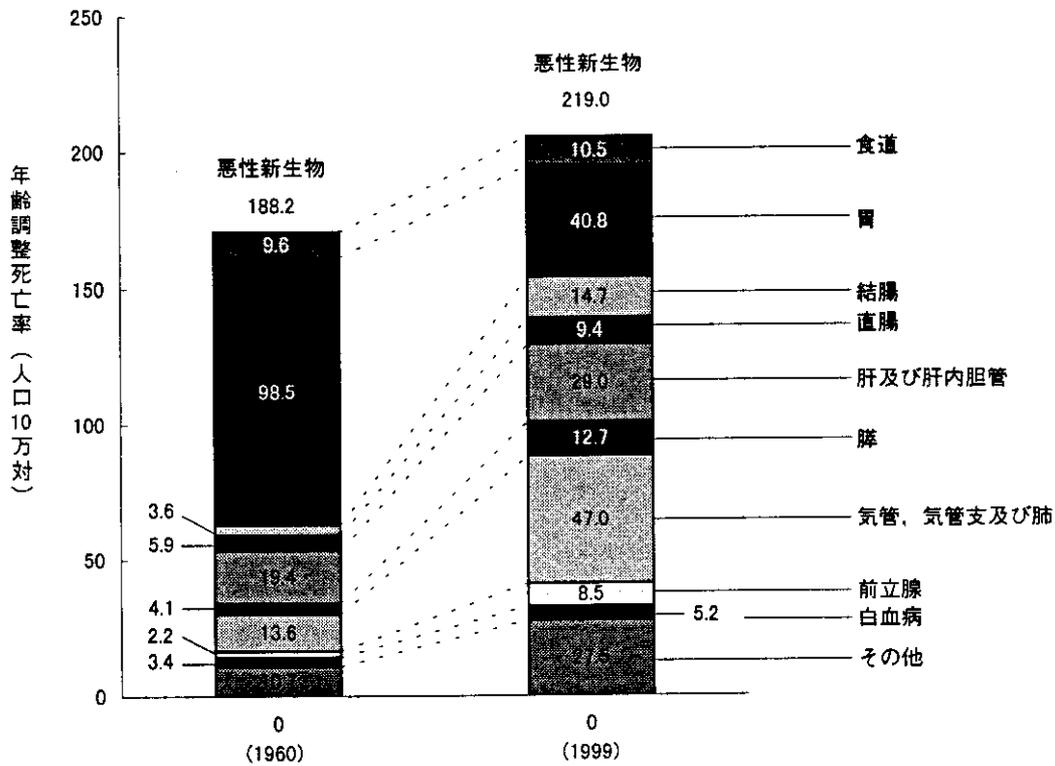
- ・年齢階級別の悪性新生物死亡率の変化をみるため、昭和35(1960)年を100とした年齢階級別死亡率の指数をみると、男では60歳代後半まで、女では70歳代まで死亡率は低下し、死亡率は改善しつつある。
- ・男女とも70歳代以降では死亡率が上昇し、人口の高齢化とともに死亡率を押し上げていると考えられる。



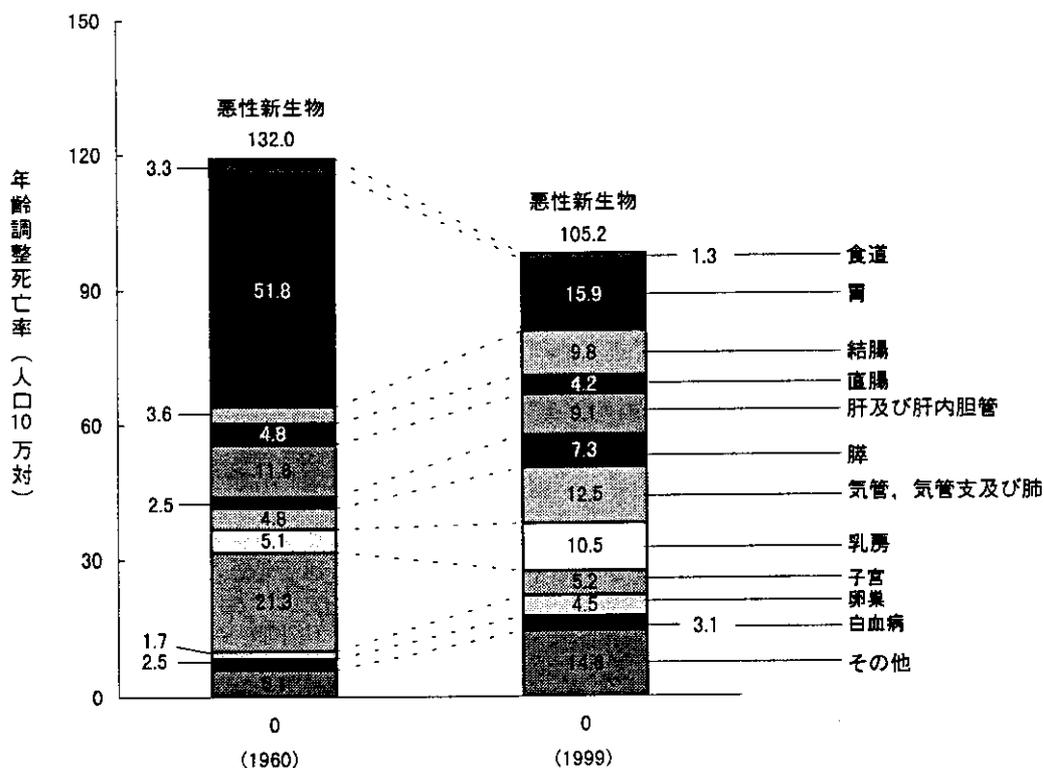
3. 部位では、男女とも胃が低下、肺が上昇

- ・ここ約40年間の部位別年齢調整死亡率の変化をみると、胃は男女とも大きく低下（男約0.4倍、女約0.3倍）している。
- ・気管、気管支及び肺は、男女とも大きく上昇（男約3.5倍、女約2.6倍）。
- ・前立腺は上昇（約3.9倍）、乳房も上昇（約2.1倍）しているが、子宮は低下（約0.2倍）している。

男



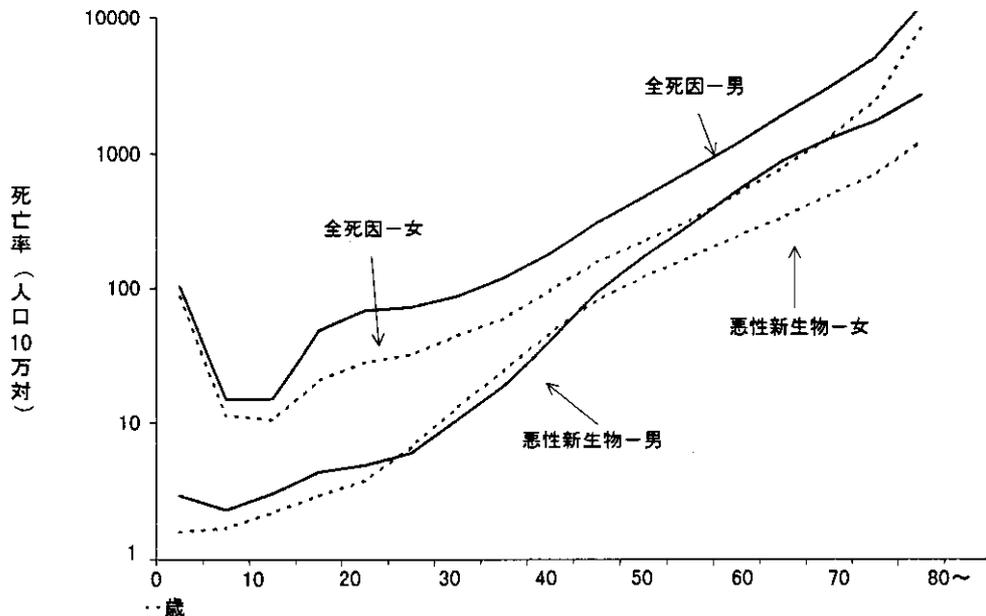
女



4. 男女では年齢階級別死亡率の傾向が異なる

- ・ 30～40歳代では、女の悪性新生物による死亡率が男の悪性新生物による死亡率を上回っている一方、50歳代以降は、逆に男の死亡率が女の死亡率を上回っている。
- ・ 60歳代では、男の悪性新生物による死亡率が、女の全死亡率を上回っている。

性・年齢階級別にみた悪性新生物死亡率—平成11年—



5. 日本と諸外国との比較

- ・ 胃は、男女とも欧米諸国よりも高い。
- ・ 肺と乳房は、男女ともアジアの中では高いが、欧米諸国と比べると低い。
- ・ 大腸は、男女とも欧米諸国と同様に高い。

性・部位別悪性新生物死亡率(人口10万対)の国際比較

国名(地域名)	男					女					
	全死因	悪性新生物	胃	大腸 ³⁾	肺 ⁴⁾	全死因	悪性新生物	胃	大腸 ³⁾	肺 ⁴⁾	乳房
日本 '99	871.6	286.5	53.4	1) ¹⁾ 31.6	61.8	698.0	179.1	27.9	1) ¹⁾ 24.9	22.2	13.9
韓国 '97	574.9	143.2	32.1	7.3	30.3	451.8	81.1	18.6	6.4	10.8	4.2
シンガポール '97	548.7	149.7	16.3	20.1	40.8	436.9	116.1	9.1	17.5	19.2	16.9
タイ '94	638.2	58.7	0.8	2.0	6.0	419.2	39.3	0.6	1.4	2.4	1.5
台湾 '95	668.2	152.1	13.9	13.0	32.4	434.1	89.0	7.2	10.1	14.4	8.9
中国 '94 2)	656.4	143.4	25.4	7.5	...	565.1	90.8	14.0	7.2	...	3.3
香港 '95	564.7	194.5	11.9	21.6	62.7	438.6	119.8	7.1	16.8	29.4	10.4
アメリカ '97	880.8	214.6	5.9	21.3	69.7	849.2	189.2	3.9	20.9	45.4	30.7
カナダ '97	753.6	212.4	8.2	21.6	65.5	684.4	179.2	4.9	19.1	37.7	32.6
イギリス '97	1036.3	275.0	15.7	30.8	76.0	1097.1	247.8	9.8	28.0	42.7	44.6
イタリア '95	1030.0	311.0	26.2	29.6	92.6	916.4	208.5	17.5	25.5	17.5	38.4
ドイツ '97	996.1	269.1	18.4	34.2	71.2	1098.5	243.6	16.3	38.3	20.9	43.7
フランス '96	973.8	306.8	12.4	29.2	72.2	864.7	188.6	7.6	25.8	12.7	36.8
ロシア '97	1500.2	237.8	38.6	20.5	76.0	1272.6	167.4	25.6	23.3	11.9	26.3

注： 1) 肛門を含まない。 2) 上皮内癌を含む。 3) 大腸とは結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸をいう。 4) 肺とは気管、気管支及び肺をいう。

資料 WHO「World Health Statistics Annual 1996-1999」

台湾は台湾保健省のホームページ「World Health Statistics Annual, 1995 Taiwan for WHO」より。

(参考)

1. 「人口動態統計特殊報告」は、毎年テーマを変えて人口動態統計をより深く掘り下げたものであり、各方面に貴重な資料を提供している。今回の「悪性新生物死亡統計」は15年ぶり、4回目の刊行となる。
2. 「人口動態統計」とは、我が国の人口の動向を恒常的に調査するものであり、国勢調査とともに我が国の主要統計の一つとなっている。

この調査は明治32年から現在の方法で調査が行われるようになり、出生・死亡・死産・婚姻・離婚の5種類の事象について、戸籍法等による各種届書を基にして調査している。

また、調査の結果は「人口動態統計」（年報、確定数）や「人口動態統計」（月報、概数）として公表している。

3. * 粗死亡率とは、死亡数を人口で除した通常の死亡率（人口10万対）
* 年齢調整死亡率とは、年齢構成が著しく異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率などを、その年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いる（昭和60年モデル人口を基準人口とする）。